



カトリック中央協議会
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN

会 報

《2015年3月号（522号）》

目 次

報 告	
・ 常任司教委員会	1
・ 社会司教委員会	3
・ 典礼委員会	3
・ 難民移住移動者委員会	4
・ カリタスジャパン	5
・ 部落差別人権委員会	7
・ 子どもと女性の権利擁護のためのデスク	8
・ HIV/AIDS デスク	8
・ 中央協議会事務局（総務）	9
公文書	10

常任司教委員会

■1 月定例常任司教委員会

日 時 2015年1月8日（木）10：00－15：00

場 所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 委 員 7人

事務局 7人

報 告

1. 『教会の宣教活動に関する教令』発布 50 周年にあたっての取り組みについて
新福音化委員会から報告された『教会の宣教活動に関する教令』発布 50 周年にあたっての取り組みについては、新福音化委員会が主催して行う具体的な取り組み方法について同委員会でさらに検討を行い、常任司教委員会に提案する。
2. 「信仰年」における各教区の取り組みについて
2012 年の「信仰年」における各教区の取り組みのまとめが新福音化委員会から報告された。司教総会での報告では、教会としての今後の取り組みや提案についてさらに内容を絞って提示する。
3. 日本聖書協会評議会について
2014 年 12 月 12 日(金)に開催された日本聖書協会評議会に出席した宮下良平事務局長から同会議の報告が行われた。
4. 中央協議会口座の東日本大震災復興義援金残高について
12 月 31 日現在の中央協議会口座の東日本大震災関連・義援金残高報告が行われた。義援金総額は 73,541,648 円、支出合計は、50,799,077 円、残高は 22,742,571 円となった。

審 議

1. 2014 年度臨時司教総会内容確認について
本年 2 月 23 日(月)－27 日(金)開催予定の臨時司教総会での取り扱い事項を確認した。なお、内容確定は 2 月の常任司教委員会で行う。
2. 第 14 回世界代表司教会議(シノドス)通常総会提題解説について
第 14 回世界代表司教会議(シノドス)通常総会の提題解説については、邦訳後、全司教および男女修道会管区長代表に送付し、質問事項への回答提出を願う。
3. 2015 年 3 月 14 日の「告解と祈りの時間」実施について
2015 年 3 月 13 日－14 日の「主にささげる 24 時間」にあたり、新福音化委員会から提案された以下の事項を全教区に実施例として配布する。
 - ・人々の告解を聴き、聖体顕示を行い、祈りの時間を持つ。
 - ・2015 年 3 月 14 日(土)の夕方 2 時間程度、各教区のカテドラルで行う。
 - ・土曜日の夕方のミサ(四旬節第四主日)で終了する。
4. 戦後 70 年司教団メッセージについて
戦後 70 年を迎える 2015 年に司教団メッセージを発表するにあたり、2 月の臨時司教総会までに案文を整え準備を行う。
5. 世界家庭大会参加について
2015 年 9 月 22 日－27 日にフィラデルフィアで開催される世界家庭大会(テーマ：愛は私たちの使命、家庭はまさに生きている)の参加については、臨時司教総会期間中に司教の参加希望を問い合わせる。
6. カトリック中央協議会管理職人事について
2015 年 3 月末日で退職する現社会福音化推進部長の石川治子の後任とそれに伴う管理職について、以下の人事を承認した。
 - ①社会福音化推進部長に清川泰司を 2015 年 4 月 1 日付で任命する。(事務局次長、広報担当、情報管理担当兼務)。清川泰司の新聞事業部長の任は、2015 年 3 月 31 日をもって解く。
 - ②新聞事業部長に嘉松宏樹を 2015 年 4 月 1 日付で任命する。(出版部長兼務)
 - ③社会福音化推進部副部長に前川 徹を 2015 年 4 月 1 日付で任命する。
7. 中央協議会発行出版物の企画承認について
出版審議会から提出された以下の書籍を中央協議会から発行することと出版企画書を承認した。

①書籍名 『日本におけるミサ中の聖体拝領に関する指針』

内 容 ミサの中で聖体を受ける際の方法や動作を通して、聖体拝領の意義や聖体に対する信仰と尊敬がしるしとして示されることを明らかにするための手引き。

②書籍名 『聖体授与の臨時の奉仕者に関する手引き』

内 容 『新教会法典』、『ローマ・ミサ典礼書の総則』、カトリック儀式書『ミサ以外のときの聖体拝領と聖体礼拝』などに個別に記載されている聖体授与の臨時の奉仕者に関する規則をまとめた手引き。

社会司教委員会

■第77回社会司教委員会

日 時 2014年12月16日(火) 10:00-12:00

場 所 コラッセふくしま 302A 会議室(福島市)

出席者 9人

審 議

1. 2015年度企画「現代世界憲章シンポジウム」について

2015年5月30日(土)13:30-16:30 札幌教区 北一条教会(カテドラル)

2015年6月14日(日)13:30-16:30 鹿児島教区 ザビエル教会(カテドラル)

2015年7月4日(土)14:00-17:00 京都教区 河原町教会(カテドラル)

2. 戦後70年平和旬間メッセージについて

「平和を実現する人は幸い〜恒久的な戦争放棄を目指して」の検討を行った。今回出された意見を踏まえ、幸田司教が修正したものを1月の常任司教委員会に提出し、2月の司教総会に提案する。

■司教のための社会問題研修会

日 時 2014年12月16日(火)-18日(木)

場 所 松木町教会、原町教会(以上仙台教区)、福島県南相馬市他

参加者 21人

内 容

カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)、福島デスク、松木町教会愛の支援グループ、原町ベースなどの話を聞き、福島第一原発の被害地域(南相馬市、J ヴィレッジ、希望の牧場、同慶寺など)を視察した。

典礼委員会

■定例会議

日 時 2015年1月19日(月) 13:30-17:15

場 所 カトリック横浜司教館(神奈川・横浜市)

出席者 8人

欠席者 3人

報 告

1. 『日本におけるミサ中の聖体拝領の方法に関する指針』について
昨年11月1日付で発行された掲記指針の小冊子は、各教区本部事務局を通じて各小教区に配布後、個別注文に応じている。1冊20円の実費頒布（送料別）。カトリック中央協議会のウェブサイトにも掲載している。
2. 『聖体授与の臨時の奉仕者に関する手引き』の発行について
本年1月28日付で掲記手引きの小冊子を発行し、教区本部事務局を通じて各教区の小教区などに配布した。1冊10円の実費頒布（送料別）。カトリック中央協議会ウェブサイトにも掲載される。
3. 『堅信への旅』の発行について
カトリック横浜教区典礼委員会編の『堅信への道』が改訂され、『堅信への旅』としてサンパウロより発行された。リーダー向けと受堅者向けがあり、幅広く利用できる。

審 議

1. 2015年度全国典礼担当者会議について
本年9月14日－16日に行われる掲記会議の内容について意見交換を行った。2014年度のテーマを継続し、「自己流のミサの司式になっていませんか？ Part 2」として開催する予定。次回以降、引き続き具体的なスケジュールなどの検討を行う。
2. 教皇庁典秘跡省指針 Homiletic Directory の発行について
教皇庁典秘跡省より昨年6月29日付で発表された掲記指針の内容を確認し、取り扱いについて検討を行った。内容として、第1部「説教とその典礼的背景」は、説教の特徴、機能、背景などについて述べられており、説教者に対して準備の重要性についても言及されている。第2部「説教法」は、説教者が心得ておくべき説教の方法や内容についての具体的な指針で、典礼暦年に沿って、各季節の主日や重要な祝祭日のミサの説教のポイントが、聖書朗読の内容を踏まえて指摘されている。現場の司祭や助祭にとって有益な資料となることを見込まれるため、翻訳準備を行うことを確認した。
3. 「ローマ・ミサ典礼書の総則」改訂訳の公表について
掲記改訂訳は2014年5月28日付で教皇庁典秘跡省より認証を受けた。改訂訳の中で、現時点で公表可能な改訂や適応、およびその解説について、前回会合での合意をもとに修正した資料の検討を行った。今会合での意見を踏まえて修正した資料を、2月に行われる臨時司教総会に提出する。

次回定例会議 2015年3月4日（水）10：00－15：30 日本カトリック会館

難民移住移動者委員会

■2014年度第6回事務局会議

日 時 2015年1月20日（火）10：00－13：00
場 所 日本カトリック会館 会議室5
出席者 5人

報 告

1. クリスマス瓦版の発送について
全国の教区事務所、小教区、修道院あてに12月10日付で発送を完了した。
2. 改定入管法・住民基本台帳法(住基法)に関するアンケートについて
2012年施行の改定入管法・住民基本台帳法などの影響に関して、在日外国人当事者への聞き取りから得られた実態を集計の上で検討し、法制度見直しに向けた提言活動に生かす。また、集計したアンケート

をどのようにフィードバックするか検討した。

3. JFC(Japanese-Filipino Children)対策会議、JFCE(JFC Empowerment)について
ここ数年、JFCの人身取引を含む搾取について問題があり、カトリック教会関係者とNGO関係者の協働で支援対応が必要になってきている。中部、関西を中心に支援が増加していることから、12月2日(火)、サクラファミリア(大阪市)会議室にて、カトリック教会内外での支援の連携などについて協議を行った。支援の連携や基金運用のための新団体JFCEを設立し、効果的な支援を行うためのネットワークとする。構成は個人の集まりとするが、難民移住移動者委員会からは山岸委員が担当として参加する。

審 議

第39回正義と平和全国集会東京大会の分科会について

9月21日(月)から開催される上記大会の分科会を担当することになり、内容について検討を行った。

カリタスジャパン

■第5回援助部会会議

日 時 2015年1月9日(金) 10:00-14:40

場 所 日本カトリック会館 会議室4

出席者 10人

報 告

1. 前回議事録を承認した。
2. カンボジアパートナー会議(11月20日-21日)参加、スマトラ沖地震10周年イベント(12月3日-5日、スリランカ)参加について
3. 東日本大震災対応について
4. 2014年度援助実績について
5. 事務局より
 - (1)カトリック日韓自殺対策シンポジウム実施(11月29日-30日)
 - (2)国連世界防災会議in仙台(3月14日-18日)への対応
 - (3)2015年四旬節黙想会実施予定
 - (4)反貧困キャンペーンへの取り組み進捗
 - (5)2014年クリスマス募金キャンペーン

審 議

1. 以下の海外会議および視察を承認した。
 - (1)ミャンマーパートナー会議(2月5日-6日)
 - (2)モンゴル視察(2月下旬-1週間程度)
 - (3)緊急災害対応トレーニング(3月9日-10日、タイ・バンコク)
 - (4)国連世界防災会議in仙台準備会議(1月27日-28日、タイ・バンコク)スカイプ参加
2. 第39回正義と平和全国集会東京大会の分科会について検討した。
3. 東日本大震災対応に関して、緊急・復興フェーズ1の最終評価と復興フェーズ2の計画について検討。
4. 援助審査 以下7件(国内1、海外6)を審査、承認した。
 - (1)日本カトリックボランティア連絡協議会「第12回総会宮城大会開催支援」250,000円
 - (2)バングラデシュ「少数民族教育支援2/3年目」75,000 USドル
 - (3)カンボジア「若者職業訓練支援」19,978 USドル

- (4) ミャンマー「カリタスマンマー財務能力強化支援」25,639 US ドル
- (5) パキスタン「コミュニティーに根ざした災害リスク管理プログラム」6,846,476 円
- (6) ヨルダン「女性移住労働者のためのコミュニティーセンター支援」10,000 US ドル
- (7) ヨルダン「シリア・イラク難民と困窮するヨルダン人のためのコミュニティーセンター支援」20,000 US ドル

5. 国際カリタス緊急支援要請(Emergency Appeal/EA) 以下4件の支援を決定した。

- (1) フィリピン「台風ハグピット緊急支援 (EA35/14)」10,000 US ドル
- (2) スーダン「ダルフル国内避難民支援 (EA36/14)」30,000 US ドル
- (3) ヨルダン「シリア難民・イラク難民支援 (EA37/14)」10,000 US ドル
- (4) シエラレオネ「エボラ出血熱対応フェーズ2 (EA38/14)」10,000 ユーロ

次回日程 2015年3月6日(金) 10:00-15:00 日本カトリック会館

■第6回事務局会議

日時 2015年1月9日(金) 15:00-17:00

場所 日本カトリック会館 会議室4

出席者 10人

報告

1. 中央協議会人事について

2015年3月末日をもって石川治子社会福音化推進部長が退職。後任の部長は清川泰司次長(他部署部長と兼任)。前川 徹(部落差別人権委員会事務長)が副部長として部長補佐に当たる。

2. 2015年カリタスジャパン四旬節黙想会の開催について

2月21日(土)	大阪教区	サクラファミリア	講師	菊地司教
2月22日(日)	名古屋教区	日比野教会	講師	瀬戸師
3月1日(日)	仙台教区	四ツ家教会	講師	瀬戸師
3月8日(日)	横浜教区	雪ノ下教会	講師	瀬戸師
3月14日(土)-15日(日)	横浜教区	静岡教会	講師	菊地司教

3. 国連世界防災会議について

3月14日-18日に仙台で行われる国連世界防災会議に、国際カリタスが参加する。カリタスジャパンは、国際カリタスに協力する形で、サイドイベント、展示ブース、ポスター展示に参加する。

審議

第39回正義と平和全国集会東京大会への対応について

カリタスジャパンとしては、分科会に、援助部会と啓発部会の2部会が参加する。

〈啓発部会〉

テーマ「自死と孤立—『生きる支援』を考える」3時間程度

講師は、宮永 耕さん(啓発部会秘書)

内容としては、ゲートキーパー養成講座のパイロットケースをワークショップ形式で実施する。

〈援助部会〉

テーマ「世界の貧困問題—今なぜ海外援助なのか」13:00-16:00の予定

講師は、菊地 功司教

内容としては、講演と活動報告、ワークショップを検討する。

次回日程 2015年4月9日(木) 15:00-17:00 日本カトリック会館

■第5回啓発部会会議

日 時 2015年1月20日（火）13：00－17：00

場 所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 9人

報 告

事務局報告（前項参照）ならびに援助部会報告（前項参照）が行われた。

審 議

1. ゲートキーパー養成講座について
次年度事業である「ゲートキーパー養成講座」（仮称）について、養成講座の方向性、名称案などについて検討した。2015年秋以降の開催に向け、内容を具体化する。
2. 第39回正義と平和全国集会東京大会の分科会について
テーマを「自死と孤立－『生きる支援』を考える」とし、参加者60人程度で、ワークショップ形式で行うことを決定した。

次回日程 2014年度第6回啓発部会 2015年3月3日（火）13：00－17：00
2015年度第1回啓発部会 2015年5月19日（火）13：00－17：00
2015年度第2回啓発部会 2015年7月14日（火）13：00－17：00

部落差別人権委員会

■事務局会議

日 時 2015年1月20日（火）11：05－15：40

場 所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 9人

欠席者 1人

報 告

1. 社会福音化推進部の人事異動について
2. 2014年度第4回定例委員会（12月3日）
3. 大阪教会管区部落差別人権活動センター
4. 大阪教区シナピスの学習会（12月6日）

審 議

1. 第39回正義と平和全国集会東京大会（9月21日－23日）の分科会
石川一雄さん夫妻の話以外に、映画『SAYAMA』上映と監督トーク、狭山事件50年のパネル展示など行うことを、実行委員会に提案する。
2. シンポジウム（第一候補 10月24日、第二候補 10月17日）
今日本を覆っている差別・排外主義の流れや動きに対して自分はどう向き合うのかという内容で、ヘイトクライム（スピーチ）を中心にする。
3. 秋季合宿（11月28日－29日、千葉・野田市）
関東大震災後に起こった虐殺「福田村事件」の学習とフィールドワーク

4. 春季合宿（2月7日－8日）
当日の役割分担などについて検討した。
5. 来年度の予定について
全国会議（7月10日－11日）
貧困が広がり差別につながっている今どういう立ち位置にいるかをテーマにする。
6. 2016年春季合宿（2016年3月頃）
次回の定例委員会（4月24日）において、長崎で開催する方向で検討する。

子どもと女性の権利擁護のためのデスク

■第31回定例会議

日 時 2014年9月10日（水）13:00－17:00
場 所 日本カトリック会館 会議室4
出席者 9人

報 告

ケース報告

審 議

マニュアルの修正案についての検討

修正案を検討した結果、マニュアルは原則マニュアルと実践マニュアルに分けること、また、原則マニュアルだけを司教総会に諮ることとした。

HIV/AIDS デスク

■第5回 HIV/AIDS デスク会議

日 時 2015年1月8日（木）15:00－17:00
場 所 日本カトリック会館 会議室4
出席者 7人

報 告

1. 聖公会聖バルナバ教会での第20回AIDSデー記念礼拝
11月30日に開催された記念礼拝は、第1回が1995年で、今回で第20回となる。カトリック教会として2007年からHIV/AIDSデスクが参加している。
2. 神言神学院でのHIV/AIDS講話
12月12日、名古屋の神言神学院で宮本秘書と事務局が、神学生や養成担当司祭に向けてAIDSの基礎的な講話をした。海外出身の神学生や司祭がいて国際的な分かち合いとなった。
3. サポーター登録の申し込み状況
各教区報にサポーター制度について掲載してもらっているが、今後さらなる広報が必要なので、呼び掛けを継続する。
4. 小冊子の注文状況
抗体検査会場に常備している中部や関西の“HIVと人権・情報センター”などから注文があり、送付した。

5. トートバッグ、キーホルダーの在庫
各地のイベントやバザーなどで頒布し、トートバッグは残り約 235 枚になった。キーホルダーは在庫が 25 個になった。

審 議

1. 関東地区カトリック学校小中高連盟宗教部会との共催企画について
講師への依頼状は、若干の修正を加え、宗教部会から郵送とメール添付送信する。
2月7日当日に14時から17時までの流れを再確認して、HIV/AIDSデスクのフェイスブックに投稿する。
プロテスタント学校にも広報する。会場内で、デスク発行の小冊子や啓発グッズを紹介する。
2. AIDS文化フォーラムin佐賀について
2月21日-22日、佐賀大学の本庄キャンパスで第1回フォーラムが開催される。展示の申し込みをした。
3. 薬害エイズを考える山の手の会の企画
3月10日に東京ボランティア市民活動センターで、HIVエイズに関する活動をしている団体を対象とする企画があり、デスクも参画する。
4. AIDS文化フォーラムin京都「宗教とAIDS」
京都の事務局からカトリックからのパネリストとして登壇する人を依頼され、人選している。
5. AIDS啓発や孤児支援団体からの広報活動の依頼
当デスクのフェイスブックを活用する必要性を確認した。
6. 来年度の活動計画とデスク・ロゴの啓発グッズ
第39回正義と平和全国集会東京大会の分科会担当が決まっている。啓発グッズはキーホルダーの評判が良いので再発注する。
7. ホームページの更新
現在更新ができない状態なので、なるべく早く改善する必要がある。

次回日程 2015年2月7日(土) 11:00-13:00 幼きイエス会 ニコラ・バレ修道院

中央協議会事務局

■総務

3月会議予定

3日(火)	カリタスジャパン啓発部会	日本カトリック会館
3日(火)	第92回聖公会/ローマ・カトリック合同委員会	日本聖公会管区事務所(東京・新宿区)
4日(水)	典礼委員会定例会議	日本カトリック会館
5日(木)	常任司教委員会	//
5日(木)	第71回ルーテル/ローマ・カトリック共同委員会	ルーテル市ヶ谷センター(東京・新宿区)
6日(金)	カリタスジャパン援助部会	日本カトリック会館
9日(月)	典礼委員会定例会議	//
12日(木)	部落差別人権委員会事務局会議	//

2015 年第 23 回 世界病者の日 教皇メッセージ

第 23 回「世界病者の日」教皇メッセージ
(2015 年 2 月 11 日)

心の知恵

「わたしは見えない人の目となり、歩けない人の足となった」(ヨブ記 29・15)

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

聖ヨハネ・パウロ二世によって始められた「世界病者の日」が第 23 回を迎えるにあたり、わたしは、病気という重荷を背負い、苦しむキリストのからだとさまざまな形で一つになっている皆さん、さらには、医療分野で働いている専門家やボランティアの皆さんに心を向けます。

今年のテーマは、ヨブ記の一節「わたしは見えない人の目となり、歩けない人の足となった」(29・15)について考えるよう促しています。わたしは、この一節を「心の知恵 (sapientia cordis)」という視点から考えたいと思います。

1. この「知恵」は、学術的、抽象的な知識でも、論理的思考の産物でもありません。それは、聖ヤコブがその手紙に記しているように、むしろ「純真で、さらに温和で、優しく、従順なものです。あわれみとよい実に満ちています。偏見はなく、偽善的でもありません」(3・17)。それは**聖霊から注がれる姿勢**です。兄弟姉妹の苦しみに心を配り、彼らの中に神の姿を見ることが出来る人々の心と精神の中に注がれる姿勢です。ですから、詩編作者のように祈り求めましょう。「生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることが出来ますように」(詩編 90・12)。「世界病者の日」の実りは、神からの贈り物であるこの「心の知恵」にまとめることができます。

2. **心の知恵とは、兄弟姉妹に仕えることです。**「わたしは見えない人の目となり、歩けない人の足となった」というヨブのことばは、町の長老の中で一定の権威と主要な地位を占めながらも、困窮する人々に仕えたこの正しい人の奉仕を示しています。彼の心の大きさは、彼が困窮している貧しい人々を助けたことの中に、また、身寄りのない子らややもめを守ったことの中に表れていました(ヨブ 29・12-13)。

現在でも、いかに多くのキリスト者が、ことばでなく、真の信仰に根ざした生き方によって「見えない人の目」や「歩けない人の足」となることをあかししていることでしょう。彼らは、介護を常時、必要とする病者に寄り添い、洗濯や着替え、食事の手助けをしています。こうした奉仕は、特にそれが長期化する場合、疲労や負担が伴うものです。数日間、手伝うのなら比較的容易ですが、何ヶ月あるいは何年もひとりの人を介護するのは大変なことです。患者がもはや感謝の意を表することができなくても介護する場合があります。しかし、その道は、聖性への気高い道です。その時、わたしたちは、主がかたわらにおられることにとりわけ寄りすがり、教会の使命を支える特別な働き手となるのです。

3. **心の知恵とは、兄弟姉妹と一緒にいることです。**病気で苦しんでいる人々とともに過ごす時間は聖なる時です。それは、「仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分のいのちをささげるために来た」(マタイ 20・28) 御子の姿にならうようわたしたちを導いてくださる神を賛美する時です。イエスご自身も「わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である」(ルカ 22・27) と語っておられます。

生き生きとした信仰をもって、聖霊に願い求めましょう。兄弟姉妹とともに時を過ごし、多くの場合、ただ静かに寄り添うことの価値を認識できるよう恵みをお与えください。彼らは、わたしたちが寄り添い、愛情を傾けることによって、愛と慰みをより強く感じることができるのです。一方、「生活の質」の重要性を主張するあまり、重病を患っている人には生きる価値がないと思わせるようなことばには、どんなに大きな偽りが潜んでいることでしょうか。

4. 心の知恵とは、自分自身から出て、兄弟姉妹のもとに行くことです。現代社会は、病気で苦しんでいる人々の枕もとで過ごす時間には特別な価値があることを、時折、忘れてしまいます。わたしたちは、忙しさに追われているために、また何かをしたり作ったりするのに夢中であるために、自分自身を無償で差し出すこと、人の世話をすること、自分は他者に対して責任があることを忘れてしまいます。多くの場合、こうした態度の背後には、「わたしにしてくれたことなのである」(マタイ 25・40) という主のことばをないがしろにする生ぬるい信仰があります。

したがって、わたしは再度、「『自己から出て兄弟姉妹に向かうこと』が絶対的に優先であるということ」(教皇フランシスコ使徒的勧告『福音の喜び』179)を強調したいと思います。「これはあらゆる道徳規範を根拠づける主たる二つのおきての一つであり、神からのまったく無償の恵みにこたえて霊的に成長する道での識別の、とても明確なしるしです」(同)。教会は本性的に宣教者であり、その本性から「具体的な隣人愛、また、理解、援助、励ましとなる思いやりが生じるのです」(同)。

5. 心の知恵とは、兄弟姉妹を裁かずに、彼らと連帯することです。愛のわざには時間が必要です。病気の人を介護する時間、彼らのもとを訪れる時間、そしてヨブの友人たちがしたように、彼らのそばにいる時間です。「彼らは七日七晩、ヨブとともに地面に座っていたが、その激しい苦痛を見ると、話しかけることもできなかつた」(ヨブ 2・13)。しかし、ヨブの友人たちは、ヨブに対する否定的な評価を隠していました。彼らは、ヨブの不幸は彼の罪に対する神からの罰だと考えていたのです。真の愛のわざは分かち合いであり、裁くことも、他者に回心を求めることもありません。心の奥底で評価を求めたり、何かよいことをしたと自己満足したりといった偽りの謙遜とは無縁のものです。

ヨブの苦しみの体験は、イエスの十字架、すなわちわたしたちに対する神の連帯という完全に無償であわれみに満ちた最高のわざのうちのみ、真の答えを見いだします。人間の苦しみ、とりわけ無実の苦しみの悲劇に対するこの愛の答えは、復活したキリストのからだに刻まれて永遠に残ります。キリストの栄光ある傷は、信仰にとってつまずきですが、それはまた信仰を確かめるものでもあるのです(教皇ヨハネ二十三世・教皇ヨハネ・パウロ二世列聖式ミサ説教、2014年4月27日参照)。

病気や孤独、無力さにより、他者とかかわることが難しいときでさえ、苦しむという体験は、恵みを伝えるための特別な手段にも、また「心の知恵」を得て強めるための源にもなりえます。だからこそ、わたしたちは、なぜヨブがその体験の終わりに、「あなたのことを、耳にはおりました。しかし今、この目であなたを仰ぎ見ます」(42・5)と神に言えたのかを理解できるのです。苦しみと痛みの神秘に身を沈め、それらを信仰のうちに受け入れる人々は、たとえその深い意味を完全に理解できなくとも、その苦しみのものを生きるよう導く信仰の生きたあかしとすることができます。

6. わたしは、今年の世界病者の日を、人となられた知恵であるわたしたちの主イエス・キリストを胎に宿し、お産みになったマリアの母としての御保護にゆだねます。

知恵の座であるマリアよ、病気で苦しむすべての人々と彼らを介護する人々のために、わたしたちの母として執り成してください。苦しんでいる隣人に奉仕することを通して、また苦しみの体験そのものを通して、わたしたちが真の心の知恵を受け入れ、育むことができますように。

この祈りとともに、わたしは皆さんに使徒的祝福を送ります。

バチカンにて
2014年12月3日
聖フランシスコ・ザビエルの記念日
フランシスコ

新刊書籍案内

- ※ 「聖体授与の臨時の奉仕者に関する手引き」 日本カトリック典礼委員会
- ※ 「司牧に関する法規の手引き（新教会法典準拠）」 日本カトリック司教協議会
「司牧の手引き」 編纂特別委員会

カトリック中央協議会 「会報」 2015年3月号 (通巻522号)

発行日 2015年2月20日

発行 宗教法人カトリック中央協議会 <http://www.cbcj.catholic.jp>

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 電話 03-5632-4411 Fax 03-5632-4457